

—2020 年度千葉県代協第 1 回 C S R 委員会議事録—

開催日時場所：7月2日(木)15:00～17:00 千葉代協事務局横大会議室

出席者：大塚俊典（市原）青木繁（木更津）東條史（京葉）田原豊（千葉）池辺晃司（東葛）
平野義樹（北総）間立徹（安房）宮内靖生（銚子）伊藤綱人（茂原）

議題内容： C S R 委員会の 2019 年度の活動振り返りと 2020 年度活動の活性化策

委員長から、昨年の各支部の取り組みと活動への協力に対しお礼を申し上げた。特に 15 号台風等の広域災害の中で被災支部の負担を他支部が担うなどして千葉の C S R を継続させたことに感謝申し上げた。

この後、新任委員が 4 名いる中、各自抱負と自身が取り組んでいるボランティア活動などを自己紹介形式で交流した。

次に、2019 年度の活動を振り返り、2020 年度活動について協議した。

三つのキャンペーン

街頭活動として三つのキャンペーンがあることを共有する中で、各委員からコロナ感染が完全には収束せずに、むしろ再流行の懸念が増す中、街頭で従来通り実施することへの危惧の声が寄せられた。田原委員から顧客訪問が法人に限定され、個人宅訪問は、ほぼ自粛している状況下に街頭活動を実施することを不安視する声があった。また池辺委員からは、揃いの法被を着て目立つ活動をすることで、時期をわきまえぬ団体との非難の目や、トラブルを誘発するリスクの指摘があった。東條委員から、こうした状況を、これまでの活動の全てを見直す良い機会と捉えて、実施する活動、見合わせる活動、実施方法を再考する活動を整理してはどうかとの提案があった。

特にキャンペーンは今後の感染の状況も勘案して、実施するかしないかを決定することとした。

清掃活動

昨年度まで実施の盤洲干潟の清掃については、旧グリーン基金贈呈先の活動縮小に伴い今年度から不実施となっていることを紹介し、それに代わる活動を全支部の中から募りたい旨を共有した。いくつかの活動の中で、支部の主体性、継続性、活性化から安房支部の北条海岸清掃活動を有力な候補とした。

献血活動

献血はその必要性は増すことはあっても減ることは無いという認識で一致した。千葉モノレール駅の献血ルームでの情宣活動は継続実施したい。

子ども 110 番の保険代理店

本活動は、原則代協会員は子ども 110 番の保険代理店として千葉県警に自動登録される旨とステッカーを再確認した。東條委員からビル上方階に事務所があるため

データで入手して置き看板に取り込みたいので可能かどうか照会があった。

ぼうさい探検隊マップコンクール

池辺委員より、学校現場では、8週間の空白を埋めるため、夏休み短縮等の実施により何とか6週間の挽回は見込めているものの残りの2週間の確保が課題となっている状況が伝えられた。委員長より、小学校等の団体に伝えていただくツールとしてレターと容易に申し込めるチラシを各委員に用意した。ツールの活用方法は各委員に委ねることとした。

防災、減災への積極的関与(大規模災害時対応～非常時のCSR活動)

日本代協CSR委員会の今年度の活動テーマとして現実に災害が多発する中でより実効性ある活動という問題意識を共有した。

昨年度、木更津支部で開催したセミナー『台風15号等の広域災害時の行政の危機管理対応、社協による救援ボランティア受け入れの課題』はタイムリーに実施されており、すぐに定員に達するくらい盛況だったと青木委員から報告があった。

委員長から、間立委員に被災した安房支部でも同種の勉強会実施をリクエストした。

サイバーセキュリティセミナー

昨年度からの継続テーマであり、ウェブ会議の準備を代協側で整えることにより県警が講師派遣することも可能との確認が取れている旨共有した。

赤い羽根共同募金

毎年、10月1日から年度末まで実施している。主たる実施機会の忘年会、新年会の開催が不確定な中ではあるが、募金先団体の取り組むテーマは孤立・虐待・自殺防止支援、社会福祉法人千葉いのちの電話や被災者・被災地支援など今後も重要テーマであることから実施継続いただきたい。

BCP(事業継続計画)

委員長から、BCPの自店保有状況を確認した。宮内委員は策定準備中とのことで、日本代協版BCP策定簡単ガイドを紹介した。間立委員が昨年15号台風で被災した際に自店のBCPを発動して機能したかどうか検証する勉強会を支部で実施することをリクエストした。

次回開催は2020年9月9日に第2回CSR委員会